

平成29年度 第1回京都市自転車政策審議会 議事概要

- 1 日 時 平成29年11月13日（月） 午後4時から5時半まで
- 2 場 所 大宮交通公園
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 内 容

（1）議題「自転車安全利用教育の現状と今後について」

会長代行：自転車安全利用教育プログラムについては、ルール・マナーのみえる化検討部会で議論を重ねていただきましたので、まずは部会長からお話をいただきたいと思う。

委員：部会のほうからは、今日の議題2の資料でもでていますが、昨年部会のキーワードとしては「ライフステージにあわせた自転車教育」が挙げられる。どのステージで誰に対してなにを誰が教えるのかということ、まずは市がいろいろなところで実施している事業を整理していただいてそこから不足しているところ、今後強化が必要など、そういったところについてどんなものが必要なのかご意見をいただき、いくつか案が出てきたというのが昨年です。それに合わせて、今年度は一歩、具体的に進めていくために、いくつかのプログラムをどうやってどこでやっていくのか検討していくことになるので、今回の議題の交通公園の活用も関係してくるところだと思う。今回の審議会で、活用のアイディアについてぜひご意見をいただきたいと思うのでよろしくお願いします。

会長代行：ありがとうございました。それでは事務局から資料説明をお願いします。

<事例報告・事務局による資料説明>

会長：それでは、全体を通しましてご意見ご質問などがあればよろしくお願いします。

委員：昨日は市民サイクリングが行われた。約20名の参加があり、遠くからは大阪市や茨木市からの参加もいただいて、市内のポタリング、いわゆる街中サイクリングを行ってきた。皆さん、京都市内の方も驚いていたのが、幅員の小さい道路にも自転車のマークや線がペイントされているのを見て、「えー、京都は凄いな」とおっしゃっていたことをご報告する。私も市内の蛸薬師通や高倉通など幅員の小さい道路にも、きちんと自転車マークがつけられており、効果が多大かどうかは分からないが、「みえる化」ということでは成功しつつあると、肌で感じている。今月25日に「らくさいスマートサイクリング」でもサイクリング協会が先導役を仰せ付かっているが、下見の際きちんと「みえる化」がされており、これは良いなと最近感じている。しかしまだまだ利用者のルール・マナーが怖いところがある。ヒヤっとすることが多々あることを報告しておく。

- 委員：小さいお子様を対象として、しかも学校まで行って、交通安全教室をして下さっているなかで、そのお子様たちの親御さんへの影響は、どのように感じたり考えていますか。
- 事務局：現時点においては、なかなか伝えにくいのではないかと思います。海外ではいろんな手法で家庭と一体となって学習を進める方法もある。けれども、現時点ではなかなか直接的にはいかず、親子の会話の話題に上がるぐらいだと思います。子どもたちは今日楽しかった、あんなことをやったというぐらいで、それが直接的な交通安全教育に結びつくかというところが、まだ分からない。
- 委員：せっかくお子様に教えていただいているので、そういうプログラムを京都市と一緒に作っていくなかで、事故を起こすのは子どももさることながら、往々にして大人の方も多いわけで、同じような相乗効果を生み出していけるようなシステムを導入されたらいいのではないかなど考える。
- 会長：部会長、効果について何か補足などありますか。
- 委員：今回ご紹介いただいたのは中学校でのプログラムなので、乗り方等がある程度理解しているという段階で実施していることから、保護者へのプログラムの内容とはだいぶ違っていると思う。保護者への影響に関しては、恐らく幼児段階のキックバイクとか、それから小学校の低学年あたりで保護者とは別の自転車と一緒に乗っているときに、どう教えるかというようなことを検討する必要がある。議題2の資料のなかでいうと、自転車の楽しみを学べるというところで、こういうところで保護者も一緒に進めていくと、より具体的、実践的な交通行動を保護者から直接学べる機会を提供できるのではないかということが、海外などの実施事例から言える。そのあたりは見習っていかないといけないなというように思う。もう一つ、先ほど事故の情報等については、保護者や地域の方に伝えていくということで、こういうプログラム内に含めるかどうかは分からないけれども、皆さんに気をつけていただきやすくなるのではないかなというように思っているので、私も期待しているところだ。
- 委員：私は小学生の子どもがおり、自転車で一緒に走るときに、子どもに「そっち走ったらあかん、こっち走れ」って親が言うこと、親の影響力が強いと思う。子どもに教えていることが親にどう影響するかという話、逆にいうと、親の世代に、自分の子どもと一緒に走っているときの交通マナーにプラスして、子どもにどう教えるか、親が子どもにどう教えたら良いのか、結構教え方というのは難しいと思う。交差点での自転車のルールと、実際の道路事情の乖離など、親が子どもに教える教え方を何かメニューやプログラム、それは対象が親やPTAや学校の集まりとかもあると思うので、何かそんな工夫があると、自らの自転車の乗り方だけでなく、それを人に教えるかみたいなことがあったら良いのかなと思う。

委員：この安全教室に関して、親の立場、自分の子どもが受けるという観点で、ご配慮いただきたい点がある。身近なところで起こった交通事故というのは子どもたちにとっては、身近な体験として非常に有効だということは理解できる。

そのなかに友だちや自分の身近な人が事故の被害者又は加害者になっているというケースの場合も子どもたちのなかでも事情をよく知っている状況になる。交通安全教室のなかで、「ルールを守らなかったからこうなったんだ」みたいな話になってしまうと、考えすぎかもしれないが、「お前が悪い、お前の誰々が悪い」というようになると、いじめの引き金になりかねない。そのあたりの、事前に先生方と協議される際に、事故が学校の児童・生徒と関係がないか確認いただいた方がいいと思う。何でもかんでも配慮というあまり好きではないが、特にいじめの引き金になることって何になるのか分からないので、十分にご配慮いただけたらありがたい。

委員：実技とメンテナンス等については今やっていないと話されたのは、それは時間的や場所的な制約からか。

事務局：時間と場所、それぞれあると思う。どうしても学校でやるとなると、子どもたちに自分の自転車を持ってきてもらうとなると、まず道中のリスクというものがある。自転車を持ってくるということを学校の指示で実施するわけであり、その間に事故が起きる恐れがある。教室は土日に実施してるが自転車を持参いただくと、まずその自転車の整備から始めないといけない状況がある。ブレーキが効かなかったりタイヤに空気が入っていなかったりと、そういったことも別で教えることができればいいのだが、個別対応になってしまうので、なかなか授業まで、教育までいかないというのがある。

委員：高齢者等の方は、学区でヒヤリハット地図を作成しているケースがある。学校のなかでも、自主的なサークル活動という変な言い方になるかもしれないが、学校の周りのヒヤリハット地図みたいなものを、小学生や中学生に作ってもらうというのも一つやり方としてあるのではないかなと感じる。

委員：私の周りでも自転車教室を実施しているが、準備や教える方の人手が結構大変だ。プログラムを冊子にまとめて情報提供していただくことはとても良いことなのだが、実際にこれをやろうとすると、どれだけの手間とお金がかかるのか、そこあたりのハードルを下げるような、もう一步簡略化して地域の方が取り組めるレベルにすることはできないのか。いろんな人がやってみようと思わせるような工夫をこのプログラムに入れておかないと、例えばそのなかにはひよっとしたらそういうプログラムをやっていただく方への何か資金的な組織的な手助けなどがあったり、役所に紹介すれば比較的スムーズにそういったことができるような仕組みがあって、問い合わせをすれば、費用が安価になるような仕組みがあったり、すべてお任せで実施してもらえらる仕組みがあったり、教育を行う方に費用や対価がかかった分きちんと支払われるような仕組みを作っておかないと、なかなか難しい印象を受けた。

事務局：個別の対応になる。それぞれの子どもたちの身近なところを題材にしているので、学校側との事前打合せを行い、実際に子どもたちが関わっている事故があるならば、あまり触れないような配慮はしている。逆に、ある高校では、過去に先輩がどこそこで事故に遭ったから、学校として指導をしており、危ないと強調してほしいというリクエストも取り入れながらやっている。フォーマットはあるが、作成に多少時間はかかる。しかしマニュアル化してしまえば、ある程度出来るかなと考えている。今現在私ひとりで、今年の春だけで9校程まわった。確かに工数は掛かるが、このプログラムは、中高生だけでなく、地域へ持って行って公民館で実施するなど、いろんな配慮は必要だが、他への展開ができると考えている。2～3年置きに内容を更新するにしても、毎年更新をしないといけないものではないと考えている。

会 長：事務局から、なにかありませんか。

事務局：実施する場所の問題、実施することそのもの大変さについて議論いただきたいがまさに今日ご視察いただいた大宮交通公園、こちらで常設の講習施設を作っているのではないかと議論に結びついていくのではないかなと考えている。本日もどうい教育をするような機能が必要なのか、またその教育するためにどのような施設が必要なのかご意見いただきたいと思っている。

このサイクルセンターの施設のイメージとして、3世代、子ども、親、祖父母世代と一緒に学べるような施設を作ってはどうかとか、教える方の負担についてお話があったが、その教える方の講習もできるような施設ができたらと考えている。大切なのは学びたいときに学ぶことができるという点だ。教育に関しては、なかなか準備が大変だということはあるが、大宮交通公園へ行ったらできるよというような施設になればという形で、またご意見をいただけたらと思う。

会 長：ただいまの事務局からの説明を受けて、また委員の皆様方から何かご発言ございますでしょうか。

委 員：安全教室の講師は、現在おひとりで廻られているが、実際なかなか広がっていかないと思う。他の教育プログラムもすべて課題は同じだ。PTAでは携帯電話等が非常に問題になっているなかで、教育委員会とPTAと保護者等が協力をして、「携帯インストラクター」に保護者の方になっていただく、講習をして各学校へまわってもらうということを実施している。一般の方が教える立場になるための講習を受けられるようなところが大宮交通公園にあれば良いと思う。

私が今一番問題だと思っているのが電動アシスト自転車だ。子どもを2人も3人も載せて暴走する電動アシスト自転車、子どもが交通安全を学んだとしても、暴走するお母さんの自転車に乗っている状況は変えていかないといけないと思う。また、障がいをお持ちの方のタンデム自転車が実際に道路に出てくるということをお大宮交通公園で目に見える形で教えてあげられたら、良いのではないかなと思う。この審議会の前身が駐輪場対策協議会だったが、駐輪場での駐輪の仕方、使い方について教えてあげることができる施設があればいいと思う。自転車の走り方だけではなくて、停め方という部分も含めて安全教育になると思う。

委員：タンDEM自転車は京都府では2年前に公道がOKになったがすぐに乗れるものではなくある程度練習が必要な乗り物だ。パイロットの方の体力や、後ろに乗られる方の体力もある程度必要だ。タンDEM自転車の乗り方は、京都サイクリング協会が指導・講習会をすることができる。また、安全教育に関しては一応サイクリング協会には、日本サイクリング協会公認指導者「サイクリング・リーダー」「サイクリングインストラクター」「サイクリングディレクター」というのもあり、そういうのをどんどん使っていただいたら、我々も出ていくし、当然この安全教育というのは家庭そして学校、社会と三位一体がうまくバランスを取ってやるのが一番なので、それに如何なるプログラムを組んでいくかということが今後の課題だと思う。

委員：大宮交通公園が理想的な自転車教育施設となったとして、京都市内の小学校4年生、中学1年生全員が社会見学や遠足の代わりに必ずここに来て、自転車を習うというようなことを強制することは京都市としてできるのか。

事務局：できないということはないと思います。別のところではやっているという事実があるようなので、まさにそのような形で皆さんがここに来ていただけるような形を考えていけたらと思う。

会長：安全等との問題があったので、府警本部の方で交通管理者として何か一言アドバイスなどはございませんでしょうか。

委員：自転車の交通事故については、全体の20%となっている。府警本部としても課題として感じている、京都市さんの事業でスケアード・ストレイト方式による自転車教室が実施されている。見て危ないというのが分かる授業なので、署の者が現場に赴き交通教室を学校と一緒にさせてもらっている。この自転車教室、スケアード・ストレイト方式による自転車教室をどんどん進めていただければと思う。

委員：自転車の交通安全のための施設の予定ではあるが、2020年の東京五輪種目のBMXには、京都の選手がオリンピック代表になっている。また、過去にも自転車競技で世界ランキングに入った京都市出身の選手がいたり、自転車の選手を多く輩出しているまちが京都市であり、こういう方達にご協力、または通じて、自転車の安全教室のみならず、自転車の楽しみ方スポーツそういった施設にもなってくれないかなと考えている。施設計画としては消防局に大分スペースが取られるそうなので、非常に難儀なことを言っているというのは重々承知しているが、ドイツやデンマークで電車に乗っていると、公園で子どもたちが自転車に乗っているシーンをよく見た。どういう施設であったかという、すり鉢状のものがあって、それこそBMXのような自転車で楽しんでいる小さな子どもたちをたくさん見た経験がある。安全第一+アルファ、そういった自転車振興の文化に通じるような施設にしていいただければと思う。

(2) 報告「自転車利用に関する市民アンケート調査について」

- 会 長**：アンケートは12月頃実施とあるが、12月の初旬、中旬、下旬どういう考えか。
今後内容を精査していくと思うが、その際に委員の皆様からこういうものを入れたいというご提案があるかと思う。実施時期はどのあたりなのか。
- 事務局**：年内にはアンケートを実施したいと思っているので、12月の上旬または中旬ぐらいからスタートしたいと思っている。
- 会 長**：1週間ぐらいの間に何か追加するようなことがあれば、最終判断は事務局、場合によっては私も相談にのりたいと思う。委員の皆様から提案があれば、1週間ぐらいで事務局に連絡いただきたい。
- 委 員**：計画のなかで、常設のサイクルセンターをとのことだが、それは非常に大事な視点と思っている。アンケートに、常設サイクルセンターに大宮交通公園を考えているということを明記した上で、「どういう在り方が良いと思いますか」というようなアンケートも取り入れていただきたいと思う。関連して、現地視察をしまして、北消防署が移転してくることにより、せっかくのコースの非常に重要なところの一角がなくなってしまうということで、コースとして破綻するということを私は非常に残念だと思っている。ここを本当に自転車の教育の場としてあるためには、せっかくこの疑似的な交通の環境があるわけなので、こういうところで、自転車というのは自転車のことだけを教えるだけでは駄目で、他の交通との関係がどうなのかとか、そのへんが大事だと思う。例えば、職員などがそれなりの車を走らせながら、自転車との関係性を感じながら交通を学ぶということがここ大宮交通公園であればできるわけです。私はできるだけ今の施設を、できるだけ活用して、上手に修正して、そこを十分に使えるような形で今後の整備ということも考えていったらいいと思うし、そういうことも含めて、アンケートのなかにはそういう視点も入れていただくような形でお願いしたい。
- 会 長**：また、お気づきの点などがあれば、一週間程度で事務局にご意見をお寄せいただければと思う。